



きらきら Eye ランド

JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第6号

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

今年の増収のカギは適期中干し！ きめ細かな水管理で目標茎数確保！！

今年は移植後の好天により活着は概ね良好となりました。その後も気温の高い日が続いたことで生育は進み、茎数がやや多くなっています。一方、田ワキの発生により葉色が上がらない圃場も見受けられます。引き続き状況に応じた水管理に努め、分げつの発生を促す水交換や田干しを実施し、初期生育の確保に努めましょう。

仙台管区気象台の1か月予報（6月4日発表）によると、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温・降水量・日照時間ともにほぼ平年並と予想されています。圃場によっては乾土効果が大きい場合があり、茎数過剰が懸念されます。有効茎数の8割を確保でき次第、直ちに中干しへ移行しましょう。

◎5月29日の生育状況（酒田農業技術普及課生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 数
は え ぬ き	25.4 cm (109)	160 本/㎡ (165)	5.4 葉 (+0.4)
つ や 姫	26.8 cm (99)	145 本/㎡ (118)	5.3 葉 (+0.7)
雪 若 丸	21.8 cm (124)	149 本/㎡ (109)	5.3 葉 (+0.3)

【移植日】「はえぬき 5/11」「つや姫 5/12」「雪若丸 5/9」

◎土壌アンモニア態窒素残存量調査結果

（5月29日現在の水田農業研究所データ）

単位：mg/100g 乾土

品 種	令和8年	平年値	平年差
は え ぬ き	6. 1	5. 5	+0. 6

現時点での土壌アンモニア態窒素の残存量は、“多い”と推察されます。

技、其の一 浅水管理で有効茎数の早期確保を！

- ①分げつの発生を促すため、日中は3cm程度の浅水管理を励行しましょう。給水は夕方または早朝に行い、昼夜の日較差により分げつの発生を促しましょう。
- ②低温時や強風が続く場合は、一時的に深水にして稲体を保護しましょう。
- ③強風などによる稲体の消耗が原因で葉色低下が見られる場合は、田ワキ対策を実施したうえで、稲の回復状況に応じて窒素成分で1kg/10a以内の追肥を行いましょう。※施肥体系が定められている特別栽培は施用できませんのでご注意下さい。

技、其の二 田ワキ・表層剥離が見られる圃場では早期対策を！！

今年は移植後に温暖な日が続いたため、一部圃場では土壌の還元が進み田ワキと表層剥離の発生が見受けられます。土壌が還元状態になると、有害ガス（硫化水素）の発生により根が傷み、葉色が低下し初期生育に大きく影響します。下記を参考に、早期に田ワキ対策を実施しましょう。

★主な対策

- ・田ワキの強い圃場では、温暖な日に2～3日程度の田干しや水交換を行い、酸素を十分に補給し、根の回復を図りましょう（但し、極端な高温時や低温時、強風時の田干しは避けましょう）。また、田干し後の入水時に「ファイトアップ（250g/10a）」や「VSこがね液（5ℓ/10a）」の施用も効果的です。
- ・表層剥離、アオミドロが多い圃場は積極的に水交換を行い、発生を抑制しましょう。

技、其の三 取りにぼした水田雑草の除草対策！

○ノビエ対策（散布前に葉数を確認しましょう）

- ・トドメMF1キロ粒剤：ノビエ5葉期まで1.0kg/10a
 - ・クリンチャー1キロ粒剤：ノビエ4葉期まで1.0kg/10a、移植後25日～5葉期まで1.5kg/10a
- 湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は湛水状態を保つ。
今年はノビエの取りこぼしが多く見受けられます。葉数の進んだノビエを処理する場合はトドメMF乳剤またはクリンチャーEWを使用して下さい。

○広葉雑草対策

- ・バサグラン粒剤ナトリウム塩：3～4kg/10a（晴天が2日以上続くときを選び、必ず落水状態で散布し3日間は入水しない）※上記の剤は特別栽培米には使用できません。

技、其の四 有効茎数の8割を確保でき次第、作溝・中干しを！！

今年の生育量は全体的に平年より多く推移しています。また、耕起期間の降雨量が少なかったため乾土効果が大きい場合があります。圃場によっては茎数過剰が懸念されます。有効茎数の8割（「はえぬき」で坪当たり株数70株の場合、1株当たり19～21本程度）を確保でき次第、直ちに中干しに入りましょう。

技、其の五 こまめな圃場観察で病虫害防除！

1. 葉いもち

オリゼメート粒剤の散布を予定している場合は、遅くとも6月20日まで散布しましょう。散布が遅れると効果が劣るので注意して下さい。また、圃場に放置されている補植苗は、葉いもちの発生源になりますので直ちに処分しましょう。

2. イネミズゾウムシ

今年も早い時期から発生が確認されております。50株当たり25頭以上の発生では減収が懸念されます。直播圃場では、初期害虫の予防防除ができないため、特に被害の拡大が心配されます。食害が目立つ圃場では、直ちにトレボン粒剤(2kg/10a)で対応して下さい。※特別栽培米には使用できません。

3. 斑点米カメムシ類

県の病虫害防除所によると、今年の発生は“やや多い”と予想されています。カメムシ類の発生源は、農道・畦畔及び休耕田の雑草です。圃場周辺の雑草地を含めた草刈を行いましょう。圃場内においてはイネ科雑草（ノビエ）、ホタルイ等の除去と防除を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図りましょう。

【 水稻直播栽培の管理について 】

直播は栽培方式により管理が異なります。下記に留意し、早めの茎数確保に努めましょう。また、病害虫の発生状況もこまめに観察しましょう。(技、其の五参照)

◎乾田直播（V溝等）

- ・ 本年の播種作業は概ね4月中に終了し、出芽・苗立ち状況は良好のようです。
- ・ 稲の葉数が2葉に達したら入水し、湛水状態が安定したことを確認してから遅れずに一発除草剤（直播に登録がある）を散布しましょう。

◎湛水直播（鉄コーティング等）

苗立ち数は播種日や圃場条件によってバラツキがあるようです。苗立ち数を確認し以下の通り対応しましょう。

苗立ち数は100～120本/㎡が目安となります。80本/㎡以下の場合は生育不良の原因（田ワキなど）を確認したうえで3～4葉期に窒素成分で1kg/10aの追肥を行い、浅水管理で茎数の増加を図りましょう。また、5葉期に250本/㎡に達していない場合は再度追肥を行ないましょう。

- ・ 直播栽培でノビエの取りこぼしがある場合は、以下の除草剤で対応しましょう。

トドメMF 1キロ粒剤：ノビエ4葉期まで 1.0kg/10a（稲3.5葉期～）

トドメMF 乳剤：ノビエ6葉期まで 200ml（散布液量25～100ℓ）/10a

【 大豆栽培情報 】

播種適期は6月10日頃までです。播種が遅れる圃場は生育量を確保するために播種量を3割程度増量しましょう。また、病害虫防除所によると、今年はネキリムシ類の発生量は、“平年並み”と予想されています。クルーザーFS30、クルーザーMAXXを使用していない圃場や例年多発するところでは圃場の見回りを徹底し、被害が見られる場合は「ネキリエースK」で防除しましょう。(■使用量:3kg/10a ■使用時期:大豆本葉2葉期まで)

やまがた米づくりナビ(旧称”スマートつや姫)

URLが更新されました。6月以降、旧URLではアクセスできなくなります。新URLまたは新QRコードからのアクセスとブックマークの再登録をお願いします。

新URL

<https://agrilook.jp/yamagata-mob/login>

※ご不明な点は最寄りのJA又は酒田農業技術普及課へ

新QRコード



酒田普及課
LINE

タイムリーに
情報発信！



↑友だち登録こちら

「収量・食味アップ・高温対策」

天候不順（高温・低温・日照不足・強風）に負けない、収量アップ対策として、ケイ酸資材等を積極的に投入しましょう。

- OKSK28（流し込み液体ケイ酸資材） 1.4kg/10a 出穂30～35日前
- ファイトアップ（投げ込み植物活性剤） 500g/10a 出穂30～45日前

園芸情報

★パプリカ：定植後の管理とポイント★

①栽培方法

○生育条件

適温は日中27℃前後、夜温20℃前後を保つように管理を行いましょう。

できるだけ明るくし光合成を活発にすることで成長を助けます。

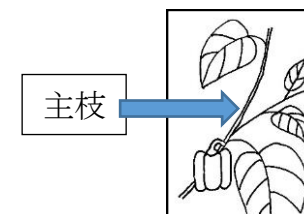
乾燥にも過湿にも弱く、萎れた場合は着果が悪くなります。定植時は畝立てを行い排水を良くしましょう。マルチをするとよりよい管理が行えます。

1晩中滞水していると根腐れを起こす場合があります。水のかけすぎにも注意しましょう。

○仕立て方

パプリカは茎が細く倒れやすいため、支柱を立てて誘引しましょう。通常パプリカは3～4本仕立てとなってきました。枝は随時伸びますが、混み合わない程度に整枝します。基本的には、側枝の葉1枚残して摘心します。

果実は主枝につけましょう。



○管理方法

収穫日数は開花から、夏期45～50日かかります。

果実に強い日光が当たると、日焼けをしてしまい、脱色し軟らかくなってしまいますので側枝の葉を多く残しましょう。

○追肥

追肥は定植1ヶ月後に1回、化成肥料を施用しましょう。果実がピンポン玉の大きさになったら2回目の追肥を行いましょう。追肥量の目安は1株当たりひとつまみ程度です。

②病害虫対策

6月以降、様々な病害虫の発生が確認されるようになります。対応が遅れると被害の拡大につながりますので、注意しましょう。

【主な病害虫の症状と対策】

- (1) アブラムシ・・・新葉を吸汁し葉の萎縮やウイルスを媒介します。
定植時の殺虫剤（粒剤）の処理や発生初期の薬剤散布を実施しましょう。
- (2) 灰色カビ病・・・花落ちした花柄が茎の間にひっかかりカビが発生し腐らせます。花柄が落ちたものは、取り除きましょう。

【注意！】毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通(出荷・販売)が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤(茎葉処理液剤)を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

特別栽培米圃場の農道・畦畔では、除草剤（茎葉処理液剤）の使用はできません！

★次号の発行は6月19日です！